

株式会社 WOWOW プラス 番組審議会議事録 (2026 年 4 月 16 日開催分)

開催年月日 : 2026 年 4 月 16 日(木) 11:00~12:00
開催場所 : 株式会社 WOWOW プラス内 Space17C 会議室

出席 : 番組審議員 7 名
WOWOW プラス 7 名

出席者

[審議員] 青木眞弥、池ノ辺直子、音好宏、高寺成紀、富澤一誠、
村上典吏子、湯浅正敏 (以上 50 音順、敬称略)

[放送事業者] (株式会社 WOWOW プラス)

宮澤辰之、森田健介、松田健吾、植竹伸剛、下原久美子、
内藤友基 (記録撮影)、高野佳彦 (書記)

議題 : (1) 2026 年 1 月~3 月の「WOWOW プラス」に対する視聴者からの問い合わせや
指摘・意見について
(2) 「WOWOW プラス」の番組内容、編成内容に関する審議

報告事項 : 2026 年 1 月~3 月の「WOWOW プラス」に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見
について

株式会社 WOWOW プラス メディア戦略局長より代表的な内容等の概要説明を行った。

審議事項 : [審議番組]

WOWOW プラス地方創生支援プロジェクト『2126 年、海の星をさがして』

<審議番組概要>

当社が 2022 年より全国の自治体や地域産業・企業と共に、放送やエンターテインメント産業での経験を通じて地域課題の解決に取り組む「地方創生支援プロジェクト」。

2026 年は、北海道・釧路市民の郷土愛(シビックプライド)の醸成を目的に組成された「釧路市シビックプライド醸成長編映像制作実行委員会」と共に、長編映画『2126 年、海の星をさがして』を制作、2026 年 3 月 20 日より釧路市内で先行公開されたのち、全国で順次公開予定。WOWOW プラスでは 3 月 30 日に放送した。

かつて熱中した RPG ゲーム『G.G.O』の続編の舞台誘致をきっかけに、地元・釧路で再会した幼馴染たちが街の未来をかけて奮闘する物語。

・本番組および「地方創生支援プロジェクト」への評価と、それが WOWOW プラス視聴者にとって価値ある番組と考えられるか。

審議内容 : ■審議員意見

・地方創生支援 PJ は今回三度目。ゲーム続編の舞台誘致を巡る物語。ストーリーとしては、いい人ばかり集まってそれで騙されて、ハッキングで解決? という流れで、少し疑問を持った。また、最後はこういう終わり方? という印象。

・このプロジェクトは楽しみにしている。従来の観光誘致から「シビックプライド醸成」を目的に自治体と連携した番組制作の新たなステップといえる。金子監督による港湾都市釧路の多彩な映像・豊かで美しい自然の描写だけでなく、市民の暮らす生活圏の活気ある映像もあり、そして何より多くの市民エキストラの参加が、シビックプライドを実感させる映像として良く出ていた。物語の心理描写の物足りなさや展開の拙速さに課題は残るものの、本来のシビックプライドという目的は良く伝わる。映画の冒頭に釧路市でのシビックプライドの取り組みを

入れてDVD化し全国の商工会議所に流通させるなどビジネス展開を考えてもよいのでは。

- このPJは素晴らしいので続けて欲しい。作る側に対して地元の方たちが面倒がらず積極的に関与、という点は良かったが実行委員会の要望も踏まえて前作までと違って知っている演者が沢山出ているという経緯もあったのか、と理解した。映画の内容自体にはあえて触れないが、こういう試みはすごく大事。一度外に出た人間が地元を知る者として応援をすることもあるし、今住んでいる人も外に出た人もこういう映画を見ることで大切なものを呼び戻す、という意味があるのでこれからもどんどん作っていただきたい。
- 主旨ははっきりしているし枠組みもしっかりしているので、作品力は頑張って高めて、話題になって、そのために宣伝をきちんとして、利益を出す。そのためには強力なプロデューサーが必要で、それこそ社長自ら陣頭指揮を執るくらいの勢いで続け、継続は力なりとなっていて欲しい。宣伝をどうすれば、という一例では音楽、北海道なら安全地帯、玉置浩二氏などご当地の有名アーティストを起用するなど、常に話題になるようなことをして我も我も参加させて欲しい、という流れになればよい。郷土愛という部分を徹底的に抉っていくのが良いのでは。イベントとして期待できるのでぜひ頑張ってください。
- 今回はたくさんの方が関わったのでスピード感がなくなったのかな、という印象。プライドというキーワードは分かったが、釧路の未来像として観光なのか物流拠点としてなのか企業誘致なのか、どこを目指しているのかが見えにくい。前2作は行政との向き合い方の良し悪しはともかく、行政が考えている施策と連動はしていた。また、公的支出を前提とした枠組みの影響もあり、釧路で撮影する時期がすごく限定され夏場の風景はあるが冬場の厳冬の画がなかったことも残念。露出先としては映画館に加えて satonoka のようなチャンネルの活用もできるのでは。
- 地方創生に関して腰を据えて取り組んでいくという姿勢にはプロジェクト発足当初から好感があり期待があった。ただ、3作目の本作に関しては、地方創生の意図とドラマとしての着地に乖離があり、観づらかった。主人公達が終幕で感じるカタルシス、即ち観客に提供すべきオチは、彼らのモヤモヤの解消ではなく、釧路という土地に生き、多くの人が知らない釧路の良さをアピールしたことを通じて、彼ら自身が成長し幸福を感じる、はたまた釧路に生きる人々を幸せにするということになるはずなのだが、実際は要素が多く、話の軸もねじれていて何が言いたい話なのか分からなくなっていた。なので、脚本作りにはもっと時間を取ってもらいたかった。
- 面白かった。いわゆるご当地映画にありがちな観光名所が次々出てくるという感じではなくさりげなく港で働く主人公、市場で働くお母さん、市役所の職員などを設定し、釧路をゲームの舞台にするための訪問の際にいろんな名所が映る体で理にかなっている。確かにストーリー展開は幼稚な部分もあるが、総合的には割と評価している。映画作品として一番大事なのはご当地の人以外の方が面白いと思うかどうか、なので他地域での劇場公開も含めずっと見られる形にするべき。そのために配信や放送で提供するのは WOWOW プラス、というのは映画ファンにとってはメリットだろうし、釧路に関係ない人にとっても金子修介の映画があったな、ということが分かる展開をして欲しいと思う。

連絡事項： 次回番組審議会は、2026年7月16日(木)午前11時(予定)より開催。

以上